

最終処分場候補地の選考過程をもっと詳しく 柿崎区地域協議会で県担当課への質問いくつも

上越地区における大きな政治課題の一つ、広域最終処分場整備に向けた候補地検討委員会の進捗状況などについて17日の柿崎区地域協議会で報告されました。報告したのは新潟県県民生活・環境部廃棄物対策課です。

報告では、産業廃棄物最終処分場整備の必要性、整備に係わる基本方針、候補地検討委員会におけるこれまでの選定作業の経緯、今後のスケジュールなどについて明らかにされました。

注目の候補地選定ですが、これまで第3次選定まで進み、旧上越市内3か

所、柿崎区6か所、中郷区1か所の合計11か所まで絞り込まれました。今後は来年2月頃に開催予定の候補地検討委員会第4次選定を行い、3〜5か所に絞り込み、この段階で候補地の場所以ついても公表の予定とのこと。県の担当者は、地域の皆さんと丁寧に話し合いながら進めていきたいと述べていました。

報告後、「(候補地が)柿崎で多いのはなぜか、具体的に説明してほしい。場所がわからずに進んでいるのは不安だ。選定の過程をもっと少し公開してほしい」「地元説明会で反対だとなったら最終的にできないことになるのか。それともいかなる反対があろうとも進めることになるのか」「第4次選定では検討委員が現地を視察するとうが、本当に現地に来るのか」などの質問が出ました。



【オヤマボクチ】(再掲)キク科の多年草です。漢字で「雄山火口」と書きます。別名は「ヤマゴボウ」。こちらの方が親しみやすいかも。花期は9月~11月。花茎の先に黒っぽい紫色の花をつけます。花は下向きです。咲きはじめの頃までは花の正面から見ると左右対称です。花言葉は「たくましい」。写真は11月7日午前、吉川区代石にて撮影。

全国的な地方自治体の議会や首長、団体などの政策コンテストであるマニフェスト大賞の授賞式が13日、オンラインで行われました。

上越市議会は中学生による模擬議会や女性フォーラムなどの取組が評価され、優秀マニフェスト推進賞(議会部門)を受賞しました。講師では、「ますます自治の進化が図られてきていて、議会の政策サイクルも多様化し、充実してきている、上越市は女性議員がゼロから7名に増えた」などといった話がありました。



3次選定結果

資料3-1

自治区名	調査対象地の数
旧上越市	3
柿崎区	6
中郷区	2

※ 合併前の上越市を、「旧上越市」と表記。

- <3次選定項目>
- ・環境条件
 - 下流域の利水状況
 - 生活環境への影響
 - 自然環境への影響
 - 沿道への影響
 - ・建設条件
 - 法規制による指定状況等
 - 地形の状況
 - 用水・電力の確保
 - 土地所有者の状況
 - ・運搬条件
 - 運搬効率
 - 搬入道路の整備
 - 積雪の状況

調査対象地：11箇所



もの公開に努めている」「反対の声はどこでも予想される。できるだけ反対の声が少なくなるのが理想だ。丁寧な説明に努め、ご理解していただき、できるだけ造れるように住民の皆さんと対話していきたい」「第4次選定にあたっての現地視察は先週、2班に分かれて行い、すでに終わっている」などと答えていました。

吉井会長は「2月の検討委員会は傍聴に行きたい」とのべておられましたが、今後の動きに注目です。



はしづめ法一の活動レポート

No.1986 2020.11.22
 発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず
 Tel 025-548-3628
 通じないときは 090-5392-1961
 E-mail hasiznyg@ruby.ocn.ne.jp
 URL <http://www.hose1.jp/>

ブログ「ホーセの見たある記」はこちら

橋爪法一 検索

春よ来い 第六三三回 十三年ぶりの電話

もう二度と言葉を交わすことができないだろうと諦めていたKさんと数日前、連絡が取れ、十三年ぶりに話をする事が出来ました。

きっかけは、今回も高田のMさんでした。Mさんは太極拳をやっていて、最近、新潟市で検定をうけてきたとのことですが、その際、知りあった女性が何とKさんだったのです。

Kさんは私の大学時代からの友人だった日本画家・風岡準仙さんのパートナーでした。Mさんと話をするなかで、「上越の市議会議員で知っている人がいる」と言っている私の名前を出し、風岡さんが死の直前まで私と交流があったことなどを熱く語ってくれました。

風岡さんは十三年前の四月に亡くなっています。私は彼の葬儀、初七日法要に出させてもらいました。そこからへんの一連の動きや私の想いなどは私のブログ(日記)、「ホーセの見てある記」に書いたのですが、その後、Kさんの携帯に電話をしたものの、つながりませんでした。

私は、「Kさんは私とは話したくないのかも知れない」と思い、その後、電話をかけなかったのです。当時書いたブログも二度と読むことはありませんでした。

新潟市へ行ったMさんから話を聞いて、私はうれしくなりました。私の勘違いだったことがわかったからです。すぐにKさんに電話しました。でも、そのときもつながりませんでした。

その六日後、土曜日のことです、私の携帯電話が鳴りました。画面表示を見たところ、Kさんからです。うれしいと言ったらいののか、ホッとしたりと言ったらいののか、心がじわーっと熱くなりました。

Kさんによると、普段、携帯電話は使っていないとのことでした。たまたま携帯電話の着信履歴を見たところ、私の名前を確

認し、電話をかけてきてくれたのでした。

十三年ぶりにつながった電話で、私は、「あれから電話をかけたんですが、つながりませんでした。風岡のことはブログにも書いたし、ホームページで彼の作品と名前を残したかったし……」と言いました。そして、十三年前の四月、風岡さんについて書いたブログの日付も伝えました。

十三年前のことでも鮮明に記憶していることがあります。それは、風岡さんがモルヒネを打たれる前に、私と話をしたいと電話をかけてきた時のことです。私は朝食も食べずに着の身着のまま軽乗用車に乗って高速道路を飛ばし、新潟のがんセンターへ行きました。

ブログでは、「病室では、風岡さんとお連れ合いが待っていてくれました。昨夜は痛くて眠れなかったのでしよう、いくぶん疲れた目でしたが、私を見てくれていきます。『来たぞ。間に合ってよかった』と言いなながら、彼の手をギュッと握りしめ、再会を喜び合いました。お連れ合いの話では、私があるというので、モルヒネは待ってもらったということでした」(二〇〇七年四月一八日)などと書いています。

Kさんは、その後、十三年前の私のブログを読み、「当時のことを思い出して、涙が出ました。高速でやってきてくださったって、一日、彼のそばにいてくださった」と語ってくださいました。そして、私のホームページに掲載した「風岡準仙作品集」については、「がんセンターの主治医の竹之内先生が風岡の死後、風岡の名前を検索したら、私のホームページの一件だけがヒットしたとのことでした」とも。

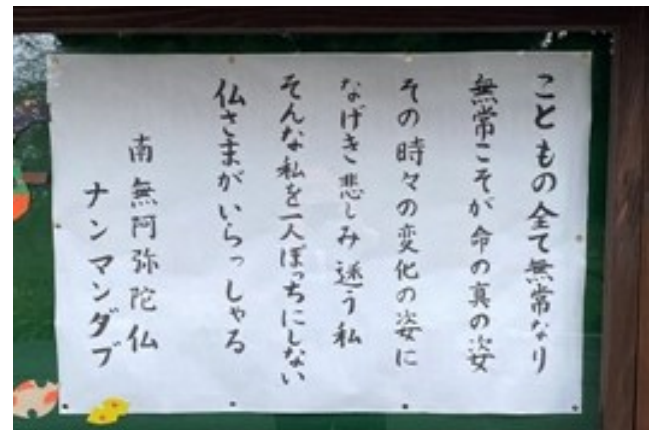
人間関係というのはちょっと勘違いで壊れたり、おかしくなったりすることがあります。でも、今回、人のつながりのなかで修復されることがあることも体験しました。改めて高田のMさんに感謝します。

お寺の掲示板新設

このところ、市内でお寺の掲示板が増えてきています。吉川区代石にある本願寺派寺院、善長寺の掲示板もその一つです。

掲示板が完成する前、前住職には、失礼だと思いつつも、「掲示板が楽しみです。なるべく自分の言葉で……」とお願いしていた経過があります。どんな言葉が登場するかも楽しみにしていました。

掲示板には、「ことものすべて無常なり 無常こそが命の真の姿 その時どきの変化の姿になげき 悲しみ 迷う私 そんな



私を一人ぼっちにしない 仏さまがいらっしゃる」とありました。読みやすい字と前住職のお人柄がにじみ出た言葉に感動しました。楽しみがまた一つ増えました。



各地で新そば祭り

新型コロナの影響でいつもよりも少ないですが、各地で新そば祭りが行われています。写真は吉川区の尾神岳、「みはらし荘」で行われた新そば祭りのメインメニュー、「新そば御膳」、美味しくいただきました。

ニュースフラッシュ

上越地域各消防署における空間放射線量率測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。

消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	11月11日(水)	11月18日(水)
上越南消防署	0.050	0.047
上越北消防署	0.040	0.043
新井消防署	0.047	0.047
頸北消防署	0.043	0.050
頸南消防署	0.067	0.067
東頸消防署	0.050	0.047
名立分遣所	0.057	0.053
高士分遣所	0.050	0.053

春よ来い 第六三三回 十三年ぶりの電話

もう二度と言葉を交わすことができないだろうと諦めていたKさんと数日前、連絡が取れ、十三年ぶりに話をする事が出来ました。

きっかけは、今回も高田のMさんでした。Mさんは太極拳をやっていて、最近、新潟市で検定をうけてきたとのことですが、その際、知りあった女性が何とKさんだったのです。

Kさんは私の大学時代からの友人だった日本画家・風岡準仙さんのパートナーでした。Mさんと話をするなかで、「上越の市議会議員で知っている人がいる」と言っている私の名前を出し、風岡さんが死の直前まで私と交流があったことなどを熱く語ってくれました。

風岡さんは十三年前の四月に亡くなっています。私は彼の葬儀、初七日法要に出させてもらいました。そこらへんの一連の動きや私の想いなどは私のブログ(日記)、「ホーセの見てある記」に書いたのですが、その後、Kさんの携帯に電話をしたものの、つながりませんでした。

私は、「Kさんは私とは話したくないのかも知れない」と思い、その後、電話をかけなかったのです。当時書いたブログも二度と読むことはありませんでした。

新潟市へ行ったMさんから話を聞いて、私はうれしくなりました。私の勘違いだったことがわかったからです。すぐにKさんに電話しました。でも、そのときもつながりませんでした。

その六日後、土曜日のことです。私の携帯電話が鳴りました。画面表示を見たところ、Kさんからです。うれしいと言ったらいののか、ホッとしたりと言ったらいのか、心がじわーっと熱くなりました。

Kさんによると、普段、携帯電話は使っていないとのことでした。たまたま携帯電話の着信履歴を見たところ、私の名前を確

認し、電話をかけてきてくれたのでした。

十三年ぶりにつながった電話で、私は、「あれから電話をかけたんですが、つながりませんでした。風岡のことはブログにも書いたし、ホームページで彼の作品と名前を残したかったし……」と言いました。そして、十三年前の四月、風岡さんについて書いたブログの日付も伝えました。

十三年前のことでも鮮明に記憶していることがあります。それは、風岡さんがモルヒネを打たれる前に、私と話をして電話をかけてきた時のことです。私は朝食も食わずに着の身着のまま軽乗用車に乗って高速道路を飛ばし、新潟のがんセンターへ行きました。

ブログでは、「病室では、風岡さんとお連れ合いが待っていてくれました。昨夜は痛くて眠れなかったのでしよう、いくぶん疲れた目でしたが、私を見てくれていきます。『来たぞ。間に合ってたよ良かった』と言いながら、彼の手をギュッと握りしめ、再会を喜び合いました。お連れ合いの話では、私に来るといので、モルヒネは待ってもらったということでした」(二〇〇七年四月一八日)などと書いています。

Kさんは、その後、十三年前の私のブログを読み、「当時のことを思い出して、涙が出ました。高速でやってきてくださったって、一日、彼のそばにいてくださった」と語ってくださいました。そして、私のホームページに掲載した「風岡準仙作品集」については、「がんセンターの主治医の竹之内先生が風岡の死後、風岡の名前を検索したら、私のホームページの一件だけがヒットしたとのことでした」とも。

人間関係というのはちょっと勘違いで壊れたり、おかしくなったりすることがあります。でも、今回、人のつながりのなかで修復されることがあることも体験しました。改めて高田のMさんに感謝します。

いじめ見逃しゼロ標語・ポスターコンクール

17日のお昼休み時間に直江津図書館へ行ってきました。新潟県内特別支援学校で取り組んでいる

「いじめ見逃しゼロ標語・ポスターコンクール」の展示作品を観てきたのです。

場所は同図書館1階ホールです。いずれも力作でしたが、標語では、会長賞の「ともだちにやさしくかたをトントントン」が良かったですね。ポスターでは特別賞の「みんなで力をあわせておよう」と金賞の「いつもともだち ずーっと」が印象に残りました。みなさんもぜひお出かけください。



新型コロナの影響でいつもよりも少ないですが、各地で新そば祭りが行われています。写真は10月31日、大島区菖蒲の飯田邸で食べた天そばです。イワナと共に美味しくいただきました。当日は秋晴れでお客様はあふれ、受付して中に入るまで1時間20分ほどかかりました。外では知り合いの人と大勢会いました。なかには「はて、誰だったかな」と思う人もいて、ろくな挨拶もせず失礼しました。

各地で新そば祭り



ニュースフラッシュ

上越地域各消防署における空間放射線量率測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	11月11日(水)	11月18日(水)
上越南消防署	0.050	0.047
上越北消防署	0.040	0.043
新井消防署	0.047	0.047
頸北消防署	0.043	0.050
頸南消防署	0.067	0.067
東頸消防署	0.050	0.047
名立分遣所	0.057	0.053
高士分遣所	0.050	0.053

春よ来い 第六三三回 十三年ぶりの電話

もう二度と言葉を交わすことができないだろうと諦めていたKさんと数日前、連絡が取れ、十三年ぶりに話をする事が出来ました。

きっかけは、今回も高田のMさんでした。Mさんは太極拳をやっていて、最近、新潟市で検定をうけてきたとのことですが、その際、知りあった女性が何とKさんだったのです。

Kさんは私の大学時代からの友人だった日本画家・風岡準仙さんのパートナーでした。Mさんと話をするなかで、「上越の市議会議員で知っている人がいる」と言ってく私の名前を出し、風岡さんが死の直前まで私と交流があったことなどを熱く語ってくださったというのです。

風岡さんは十三年前の四月に亡くなっています。私は彼の葬儀、初七日法要に出させてもらいました。そこらへんの一連の動きや私の想いなどは私のブログ(日記)、「ホーセの見たる記」に書いたのですが、その後、Kさんの携帯に電話をしたものの、つながりませんでした。

私は、「Kさんは私とは話したくないのかも知れない」と思い、その後、電話をかけなかったのです。当時書いたブログも二度と読むことはありませんでした。

新潟市へ行ったMさんから話を聞いて、私はうれしくなりました。私の勘違いだったことがわかったからです。すぐにKさんに電話しました。でも、そのときもつながりませんでした。

その六日後、土曜日のことです。私の携帯電話が鳴りました。画面表示を見たところ、Kさんからです。うれしいと言ったらいののか、ホッとしたりと言ったらいのか、心がじわーっと熱くなりました。

認し、電話をかけてきてくれたのでした。

十三年ぶりにつながった電話で、私は、「あれから電話をかけたんですが、つながりませんでした。風岡のことはブログにも書いたし、ホームページで彼の作品と名前を残したかったし……」と言いました。そして、十三年前の四月、風岡さんについて書いたブログの日付も伝えました。

十三年前のことでも鮮明に記憶していることがあります。それは、風岡さんがモルヒネを打たれる前に、私と話をしたいと電話をかけてきた時のことです。私は朝食も食わずに着の身着のまま軽乗用車に乗って高速道路を飛ばし、新潟のがんセンターへ行きました。

ブログでは、「病室では、風岡さんとお連れ合いが待っていてくれました。昨夜は痛くて眠れなかったのでしよう、いくぶん疲れた目でしたが、私を見てくれていきます。『来たぞ。間に合ってよかった』と言いなながら、彼の手をギュッと握りしめ、再会を喜び合いました。お連れ合いの話では、私に来るといので、モルヒネは待ってもらったということでした」(二〇〇七年四月一八日)などと書いています。

Kさんは、その後、十三年前の私のブログを読み、「当時のことを思い出して、涙が出ました。高速でやってきてくださったって、一日、彼のそばにいてくださった」と語ってくださいました。そして、私のホームページに掲載した「風岡準仙作品集」については、「がんセンターの主治医の竹之内先生が風岡の死後、風岡の名前を検索したら、私のホームページの一件だけがヒットしたとのことでした」とも。

人間関係というのはちよっとした勘違いで壊れたり、おかしくなったりすることがあります。でも、今回、人のつながりのなかで修復されることがあることも体験しました。改めて高田のMさんに感謝します。

白い小豆を干す農家も

この時期としてはとても暖かく感じられる日が続いています。12日、19日の木曜日には晴れの天気を利用して、大豆、小豆などを脱

穀している家や農産物を干している家がたくさんありました。

写真は白い小豆です。普通の小豆よりも小粒でしたが、きれいで

したねの白い餡(あん)の元になるのだそうです。写真は12日、大島区田麦にて撮影しました。



ニュースフラッシュ

上越地域各消防署における空間放射線量率測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	11月11日(水)	11月18日(水)
上越南消防署	0.050	0.047
上越北消防署	0.040	0.043
新井消防署	0.047	0.047
頸北消防署	0.043	0.050
頸南消防署	0.067	0.067
東頸消防署	0.050	0.047
名立分遣所	0.057	0.053
高士分遣所	0.050	0.053

新型コロナの影響でいつもよりも少ないですが、各地で新そば祭りが行われています。写真は10月31日、大島区菅蒲の飯田邸で食べた天そばです。イワナと共に美味しくいただきました。当日は秋晴れでお客様はあふれ、受付して中に入るまで1時間20分ほどかかりました。外では知り合いの人と大勢会いました。なかには「はて、誰だったかな」と思う人もいて、ろくな挨拶もせず失礼しました。

各地で新そば祭り

